

ティミーティング 開催実績

資料 1

開催日時・場所	平成28年1月12日(火) 午後1時30分～3時、市役所4階特別会議室
参加者	市長、副市長、福祉部長、高齢者関係2団体：8名 他に事務局として福祉部高齢施策課職員3名(課長、課長補佐2名)
テーマ	超高齢社会に対応可能な交通費助成制度及び高齢者福祉施策のあり方について
ミーティングの概要	市長が別添の資料3にて生駒市の高齢者の現況及び今後の状況について、また、現在実施している交通費助成の課題等や本制度に変わる高齢者福祉施策の今後の方向性について説明した。その後、市長と出席者で意見交換を行った。

主な意見等

見直し賛成	<ul style="list-style-type: none">・要介護状態の方には既に多額の公的費用が投入されているので、もっと介護予防に費用を回すべきである。・老人福祉への支援を手厚くするのではなく、子育て世代の若い人の転入を考え、教育や子育て等の施策に力を今以上にいれるべきである。・交通費助成について一部自分で使用していない人もあり、財源の問題から考えて、所得制限を設けてみるのも1つだと思う。
どちらでもない	<ul style="list-style-type: none">・市内のエリア間移動が非常に不便である（公共施設⇒公共施設）。・地域の中で体操教室等を通じて見守り活動を行うことは非常に有意義である。もっと地域包括支援センターや事業所と連携を強化したいが、事業者間の温度差や個人情報などがネックとなりスムーズに連携できない場合がある。・介護予防や健康づくり等の活動には、活動場所が必須であるため、空き家や自治会館、集会所でもスムーズな利用ができるような手立てが必要である。・専門知識に明るい寿大学の卒業生に声をかけ、1人暮らし高齢者の訪問や見守り活動、サロン活動やIT活動の推進などで活躍してくれる人材を創出することで新たな担い手の確保ができる。・寿大学の10年後を想定し、インターネットの環境を整備するなどし、タブレットやスマホ等にて認知症予防ができるようなアイテムを導入するなどして、介護予防に努める。・タブレット等を活用し、高齢者の健康支援や買物支援、ひとり暮らしの安否確認などを行うようなものを導入する。・重度の介護をされている家族への支援について、具体的な施策をもう少し丁寧に考えていく必要がある。また、そのことが地域コミュニティの構築にもつながっていくのではないかと考える。（子育て支援も同様）
その他	<ul style="list-style-type: none">・企業等に働きかけて、市内の施設や小学校の教室等にネーミングライツを導入し、その収入を介護予防などの事業費に充てる。・小学校の空き教室等を活用し、高齢者と子供との世代間交流を行うことにより、高齢者に優しい大人に育てていく等、教育と福祉部門の連携を促進する。・地域の活動は、実績を上げて、まずやってみてその上で支援を仰ぐことを基本とするべきである。補助ありきの姿勢はどうかと考える。